

# 2010年度 入試問題分析シート

京都大学

前期日程

科目 国語(古文・文系)

試験時間	120分	満点(配点)	総人(文)・文・法・経済(一般) 150点 教育(文) 200点 経済(論文) 100点	出題数	現代文 2題 古文 1題
------	------	--------	---	-----	--------------

## 総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

### <総論>

京大ではこれまで『栄花物語』『大鏡』などの歴史物語からの出題は見られたが、『増鏡』からの出題は珍しい。

### <特記事項・トピックス>

### <合格への学習対策>

語彙・語法の正確な理解の上に、主体や客体・登場人物の心情などをしっかりとつかみ、また和歌の現代語訳なども練習することが必要である。

## 問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	歴史物語	『増鏡』 第十六 久米のさら山	有名箇所直前から出題された。	標準

## 設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	和歌の現代語訳問題。倒置は倒置のままで訳すこと。	標準
	問二	記述	現代語訳問題。 (2)「許さねば」と「口惜しく」の主体の違いをしっかりとつかむこと。 (3)「あまた」と「重かる」の内容の補いがポイント。	標準
	問三	記述	現代語訳問題。「さるべきこと」は「夫と一生の別れをしなければならないこと」という内容である。	標準
	問四	記述	心情説明問題。後醍醐天皇との別れより、夫との別れの涙の方が多いことをつかむ。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは運動しません。